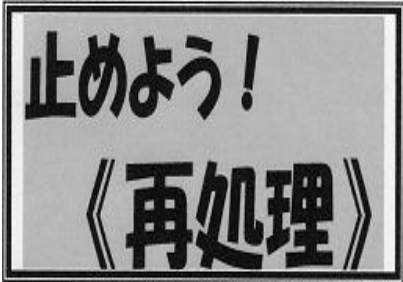


**三陸の海を放射能から守る  
岩手の会** (略称) 三陸の海・岩手の会  
郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ 《再処理 / 岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》  
2023(令和 5年)  
6月 8日  
第246号  
編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

# 日本海溝巨大地震 六ヶ所再処理工場質問主意書・国会審議から (下) 中央防災会議の警告 六ヶ所村震度6強を無視する原子力規制委員会

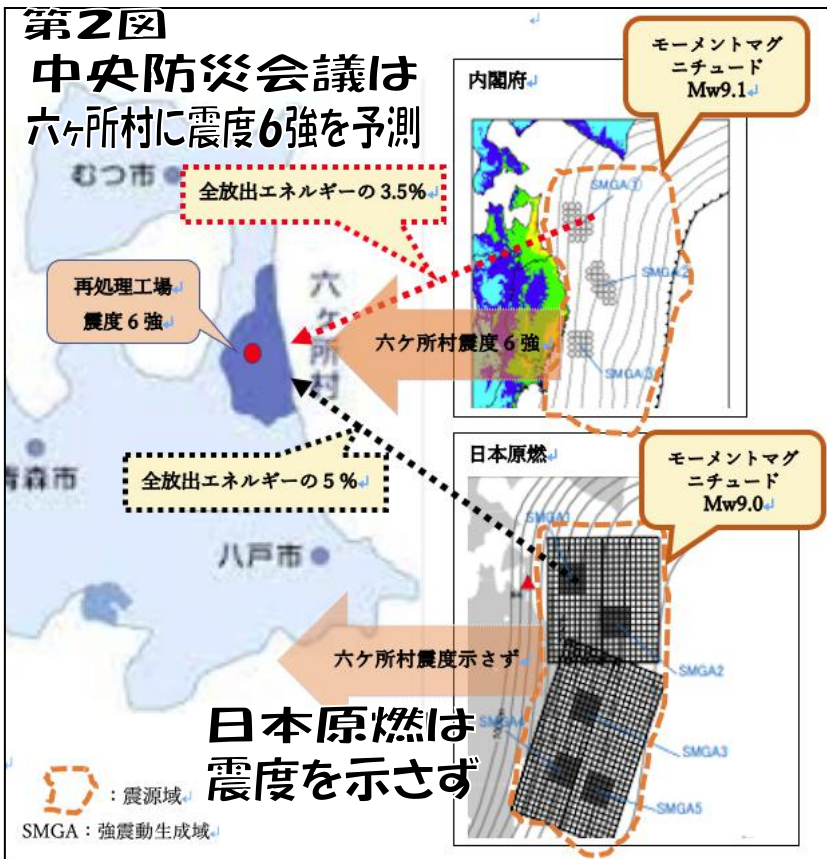
福一原発事故の教訓に学ばぬ姿勢は許されない!

山崎議員 二度目の質問

「震度6強」が予測される

再処理工場も再審査を行うべきだ

今年二月山崎議員は再処理工場の耐震について三度目の質問を行いました。  
「内閣府中央防災会議のまとめでは、公共施設は震度六強以上の耐震が求められている。六ヶ所村は震度六強だが工場は耐えるのか」との質問に「原子力施設について、原子力規制委員会は規制法、規則等に定める基準に基づき、基準地震動による地震力に耐えられること等を求めている」だから、「震度6強を指定しての要求」は必要ないとし、「原子力施設は独自の審査をしているので再審査は必要である」と回答しました。これは未だ原子力施設は特別とする恐るべき回答です。詳しくは以下のUR



しをご覧ください。  
230310QR&A&C.pdf  
(coocan.jp)  
2023.2.28  
『山崎議員提出質問主意書から分かったこと・Q&A&C』

政府答弁書

「六ヶ所再処理工場の

震度6強を指定した耐震審査を必要なし!

原子力施設の特別扱いは許されない  
「六ヶ所再処理工場が震度六強に耐えるのかを指定して日本原燃へ要求する必要はない」。これが国からの答弁書  
内容は文科省地震本部の福島原発に大津波が襲来するとの警告を東電がさまざま画策し対策をとらず無視した結果三・一一大震災で

(注)モーメントマグニチュード(Mw) : 地震は地下の岩盤がずれて起こるが、この岩盤の規模(ずれた部分の面積×ずれた量×岩盤の硬さ)をもとにして計算したマグニチュード(地震の規模)をいう。一般に地震計で観測される地震波の震幅から計算される「マグニチュード(M)」より、物理的意味で明確となる。



写真：田嶋雅巳氏、雑誌「宝石」より

一九九四(平成六)年二月二八日の「三陸はるか沖地震」で、六ヶ所村尾駁港の岸壁はメチャメチャに被害を受けました。日本原燃は「春になつて雪の消えないうちに」と、厳冬に急ピッチで工事をしない元通に、としてまいりました。

# 「三陸はるか沖地震」の時には 高レベル放射性廃液は 無かった

福一原発事故を起こしたことと同じ対応ではないでしょうか。原子力施設だけの特別扱いは許されません。

**原子力施設は別の法**  
規で規制しているから無視してよい？

原子力施設は別の法律で規制しているから「中央防災会議の警告は考慮せず」。このような回答を平気で出

すこの国の原子力規制委員会の姿勢に驚きと怒りを禁じえません。青森県や周辺県に住む人々の生きていく基盤を絶対に守るといふ本来の責務を委員会はどう考えているのでしょうか？ 二度と原子力事故を起こしてはいけません。この地と私達の生活、環境を守るため、怒りの声を大きくしていきたいと思います。

## 私達の学習会から

### その一

**Eさん** 大地震の問題は専門用語が難しい。「SMGA」とは何ですか？

**Jさん** 「特に大きな地震が起き易い地域」で、プレート境界や断層面において、特に強く固着しているところ。

**Kさん** 強く固着している断層はひずみが溜まります。

**とん** 日本の地震学は近年進歩してきているのかな？

**Mさん** 地震のメカニズムなどは分かっています。中央防災会

師走の午後9時19分発生、震央は八戸東方189km。M7.5で震源は浅く八戸市で最大震度6：最大加速度602.3ガル。津波は八戸・宮古で最高50cm。住宅全壊72棟、半壊429棟。死者3人。前年から六ヶ所再処理工場の建設が始まったばかり。高レベル廃液や使用済み核燃料はまだ無かった。「はるか沖合」ではなく「かなり近海」にSMGA(強震動生成域)がある。

議報告は日本の専門家集団が七年かけて調査研究したものであり、かなり信ぴょう性があると思います。

**Nさん** 設計基準地震動の七〇〇ガル以上の地震波が到達すると危険なわけですね

**Qさん** そうです。日本原燃は応答スペクトル(注)に基づく地震動評価を行いこの基準地震動で耐えろとし、規制委員会の了解を取り

ました。日本原燃は六ヶ所周辺の震度分布を公表し、条件や方式を内閣府に合わせたパラメータで比較すべきです。これでは都合よくごまかしていると言えませんか。

(注)応答スペクトル

いろいろな固有周期(建物や構造物が揺れやすい周期)を持つ様々な建造物や構造物に対して、地震動がどの程度の揺れの強さ(応答)を生じさせるかを分かりやすく示したものです。

**Pさん** その具体的なデータと、その説明がないので不安です。

**Qさん** 六ヶ所再処理

工場で地震被害が予想される施設にどんなものがあるのですか？

**Rさん** 地震に弱い施設にクレーンが思い浮かびます。しかし核施設の耐震は地震波との共振であり施設の固有振動がよくわかりません。耐震をしつかりさせなければならぬのはま



## 危険！ 声を上げよう！

ず「高レベル放射性廃液」施設です。ガラス固化も出来ずに二百立方mも液体で貯められていて冷却が失われると沸騰し超危険です。

**Sさん** 「三千トンの使用済み核燃料プール」も危険。早期に地上に降ろし乾式貯蔵に切り替え安全を確保すべきです。

内閣府中央防災会議が、日本海溝地震で六ヶ所再処理工場に震度六強がありうると発表しました。住宅や公共施設に「震度六強」の耐震見直しを呼び掛けている。ところが最も危ない放射能を扱っている事業者が、自分らの施設は「特別で安全」と審査会で説明しているのだ。◆東北電力の女川原発では、工場内天井クレーン台座が地震によって被害をうけ、あちこちに亀裂が入り、危険な状況である。一号機は古くなって廃炉が決まっているが、天

井クレーンが損傷しては上階にある使用済み核燃料も安全に地上に降ろせない。◆この問題について本会を含む宮城・岩手の市民団体が宮城県知事へ質問・要請書を提出した。先ごろ「回答書」が届き、五月二六日に宮城県庁で意見交換会もたれた。◆もう一つ、極めて深刻なのは福島事故原発1号機のペDESTALという原子炉圧力容器を支える基盤の損傷問題である。地震が来たら倒れるかも。危険がいっぱいである。

(尚)